

五戸総合病院での研修を終えて

令和2年10月研修
東北大学病院 初期臨床研修医
浅野 優美愛

私は令和2年10月の1か月間、五戸総合病院産婦人科にて研修させていただきました。研修医となってから産婦人科研修をするのは初めてであったため、外来業務や病棟業務等どれもすべてが1から学ぶことばかりの大変充実した研修となりました。

ここ五戸総合病院では、手術に助手として参加したり、助産師の方とお産を取り上げたりと、他ではなかなか体験できないような実践的な研修を行うことができました。妊娠の確定診断に始まり、初期～後期まで各ステージの妊婦健診、および合併症の管理（重症例の他院への搬送を含む）から、分娩進行～胎児娩出、産褥期に至るまでの様々な経験を通し、指導医の井戸川先生の指導のもと、短期間の中であっても産婦人科の知識と経験を深く養うことができました。

また、五戸町健診センターにて毎朝子宮頸がん検診を実施していく中で、婦人科診察の基本手技にふれつつ、地域に根差した医療の一端を担うことができました。

その他、近隣の新郷村にて行われている健診結果説明会へ赴き、健診を受けられた患者様の健康相談に乗ることで、普段大学病院では経験することの難しい一次予防への参画も果たすことができました。

私の主な初期研修先である宮城県仙台市とは異なり、ここ青森県三戸郡五戸町では医療機関や医療従事者の数が限られることもあり、他の地域との連携が不可欠であるということも身をもって実感致しました。健診等の一次予防や外来診療、中等症までの入院患者はもちろん自院にて診療を行っていますが、例えば産婦人科であれば重症例で緊急帝王切開が必要な症例では、その後の低出生体重児の管理が不可能なため他院への搬送を余儀なくされる例もありました。

大学病院では他院から転院搬送された重症例を診ることが多いのですが、それらが搬送される前段階を経験できることはあまりなかったため、これを通して地域医療連携への理解を深めることができました。

最後になりますが、研修を快く受け入れてくださった産婦人科の井戸川先生をはじめとしまして、院長の安藤先生、病棟や健診センターの助産師・看護師の方々には大変お世話になりました。また、私に多くのことを学ばせてくださった患者様、および患者様のご家族の方々にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この経験を糧としまして、今後も医師としての研鑽を積んでいく所存です。